



2023年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年5月12日

上場会社名 株式会社バンク・オブ・イノベーション 上場取引所 東
 コード番号 4393 URL <https://www.boi.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 樋口 智裕
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CF0経営管理部長 (氏名) 河内 三佳 (TEL) 03-4500-2899
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第2四半期の連結業績(2022年10月1日~2023年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第2四半期	13,911	—	4,392	—	4,408	—	3,041	—
2022年9月期第2四半期	1,145	△1.5	△394	—	△394	—	△268	—

(注) 包括利益 2023年9月期第2四半期 3,041百万円(—%) 2022年9月期第2四半期 △268百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第2四半期	760.31	753.61
2022年9月期第2四半期	△70.02	—

(注) 2022年9月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失のため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第2四半期	7,288	3,443	47.0
2022年9月期	2,039	399	18.7

(参考) 自己資本 2023年9月期第2四半期 3,426百万円 2022年9月期 382百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年9月期	—	0.00	—	—	—
2023年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年9月期の連結業績予想(2022年10月1日~2023年9月30日)

2023年9月期の連結業績予想につきましては、現時点で適正かつ合理的な業績予想の算定が困難であるため記載しておりません。なお、当該理由等につきましては、添付資料P. 2「1. (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期2Q	4,003,000株	2022年9月期	3,999,000株
② 期末自己株式数	2023年9月期2Q	34株	2022年9月期	34株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期2Q	3,999,757株	2022年9月期2Q	3,839,232株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(重要な後発事象)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に係る規制緩和や各種政策の効果により、景気が持ち直していくことが期待されておりますが、海外の金融政策による影響や物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等による影響など、引き続き注視する必要があります。

当社グループの事業を取り巻く環境においては、2022年における世界のモバイルゲーム市場規模は8兆9,146億円、そのうち日本国内では1兆2,129億円と高い水準で推移しております（参考：株式会社角川アスキー総合研究所「ファミ通モバイルゲーム白書2023」）。

このような事業環境のもと、当社グループでは、中長期的な成長の要となる複数の新規アプリの企画・開発及び既存アプリの運営に取り組んでまいりましたが、「メントモリ」の大きな寄与により、グループ全体の売上高・利益は前年同期比で大きく増収増益となりました。また、「幻獣契約クリプトラクト」は配信開始から8周年を迎えることができました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は13,911百万円（前年同四半期比1,114.26%増）、営業利益は4,392百万円（前年同四半期は営業損失394百万円）、経常利益は4,408百万円（前年同四半期は経常損失394百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,041百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失268百万円）となりました。

なお、当社グループはスマートフォンアプリ関連事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は7,288百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,248百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が2,343百万円増加、売掛金が2,531百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は3,845百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,204百万円増加いたしました。これは主に、未払金が847百万円増加、未払法人税等が1,358百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は3,443百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,044百万円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益を3,041百万円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、「品質最優先」の方針のもと、高品質ゲーム及びサービスの開発、世界同時運営及びグローバルIP展開等によって、数年ごとに年間売上高を数倍規模に引き上げていくことを目指しております。

連結業績予想については、当社グループが属する業界の変化が激しいこと、また機動的な投資判断を実施することから、現時点で適正かつ合理的な業績予想の算定が困難であるため、具体的な予想値は非開示とさせていただきます。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,043	3,387
売掛金	298	2,830
その他	79	403
流動資産合計	1,422	6,620
固定資産		
有形固定資産	5	8
無形固定資産	6	5
投資その他の資産	606	654
固定資産合計	617	668
資産合計	2,039	7,288
負債の部		
流動負債		
短期借入金	300	—
1年内返済予定の長期借入金	424	418
未払金	275	1,123
未払法人税等	6	1,365
その他	77	592
流動負債合計	1,084	3,498
固定負債		
長期借入金	555	346
固定負債合計	555	346
負債合計	1,640	3,845
純資産の部		
株主資本		
資本金	560	562
資本剰余金	713	715
利益剰余金	△892	2,148
自己株式	△0	△0
株主資本合計	382	3,426
新株予約権	17	17
純資産合計	399	3,443
負債純資産合計	2,039	7,288

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
売上高	1,145	13,911
売上原価	1,134	5,622
売上総利益	10	8,288
販売費及び一般管理費	405	3,895
営業利益又は営業損失(△)	△394	4,392
営業外収益		
受取利息	0	0
受取手数料	3	29
助成金収入	3	—
その他	0	0
営業外収益合計	7	29
営業外費用		
支払利息	6	3
為替差損	—	10
支払手数料	0	0
営業外費用合計	7	14
経常利益又は経常損失(△)	△394	4,408
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△394	4,408
法人税等	△125	1,367
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△268	3,041
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△268	3,041

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△268	3,041
四半期包括利益	△268	3,041
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△268	3,041

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。